

★ 操 作 方 法 ★

マンガのページの上でクリックすると次のページを表示します。右クリックすると前のページに戻ります。

※ Macintosh で、マウスに右クリックの設定をしていない方は、キーボードの「control」キーを押しながらマウスをクリックすると前のページに戻ります。

※ iPad では、上下スクロールでご覧いただけます。

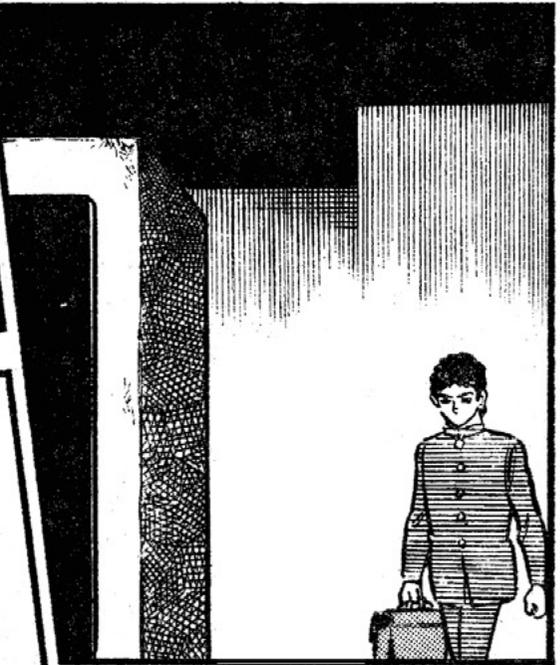
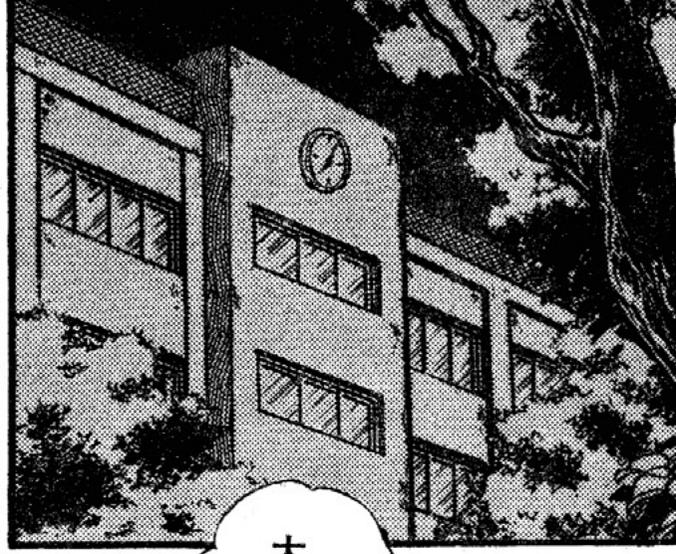
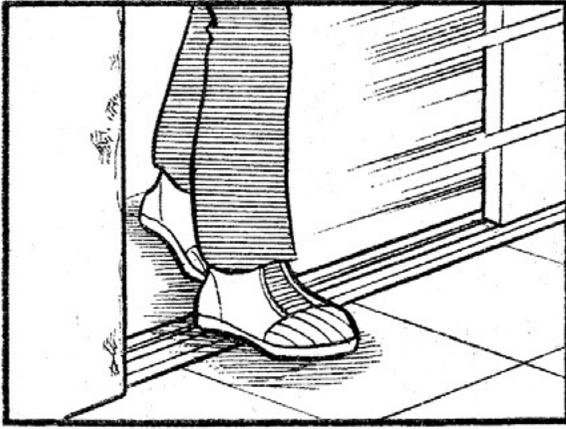
め 光る眼の少女

連載 (第3回)



かたおか徹治

資料協力 山梨賢一



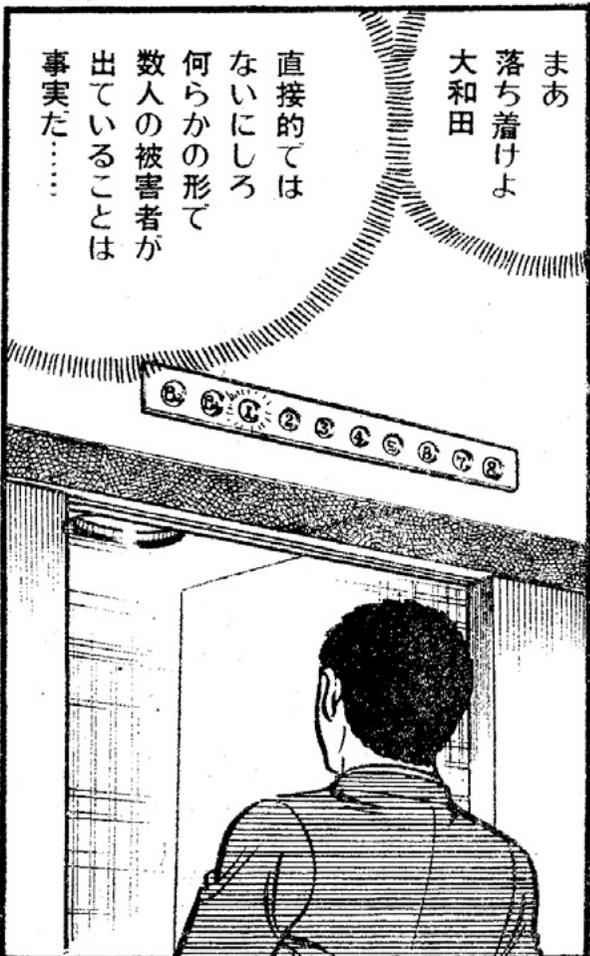
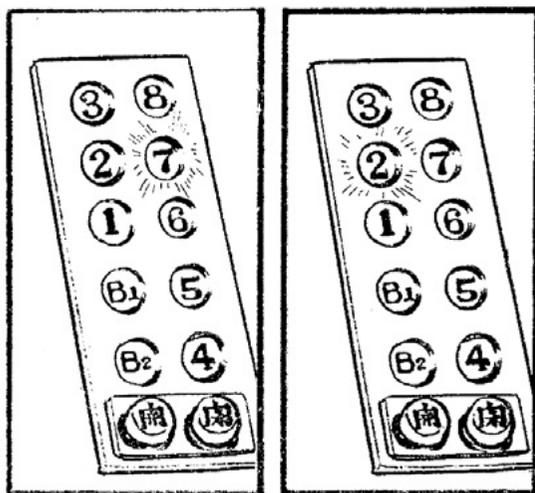




ああ
超自然現象…
念力や透視、
テレパシー、
予知等に関する
研究をしている
ところだ

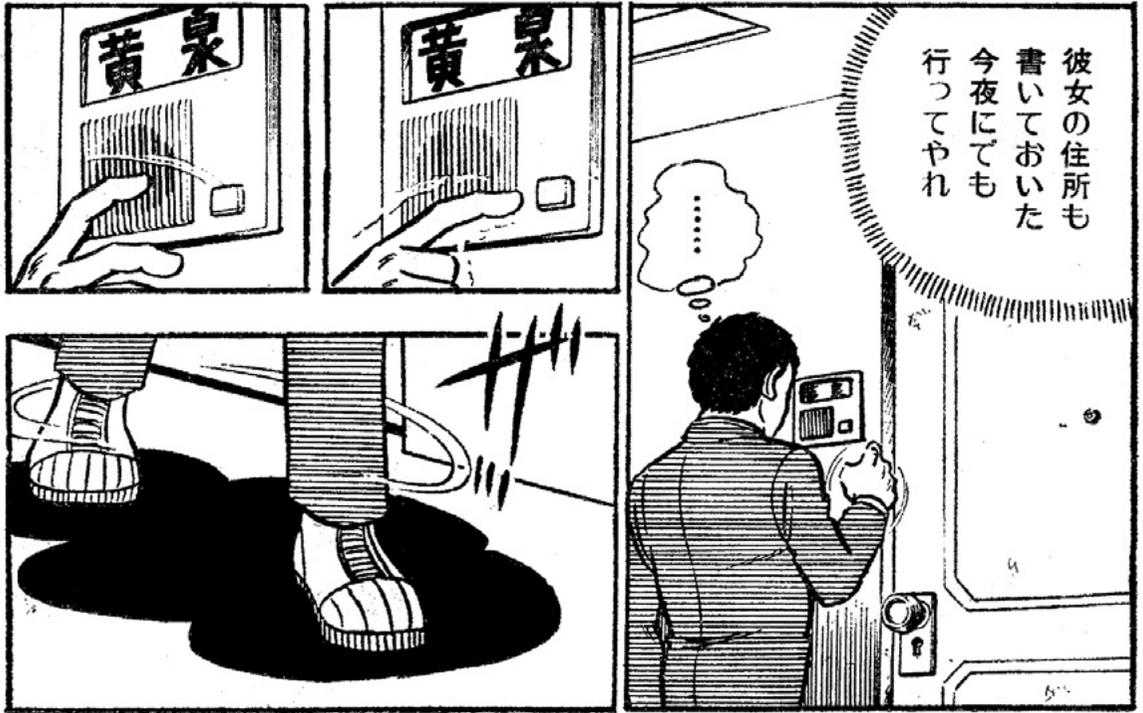
モルモットじゃ
ないんですよ!!

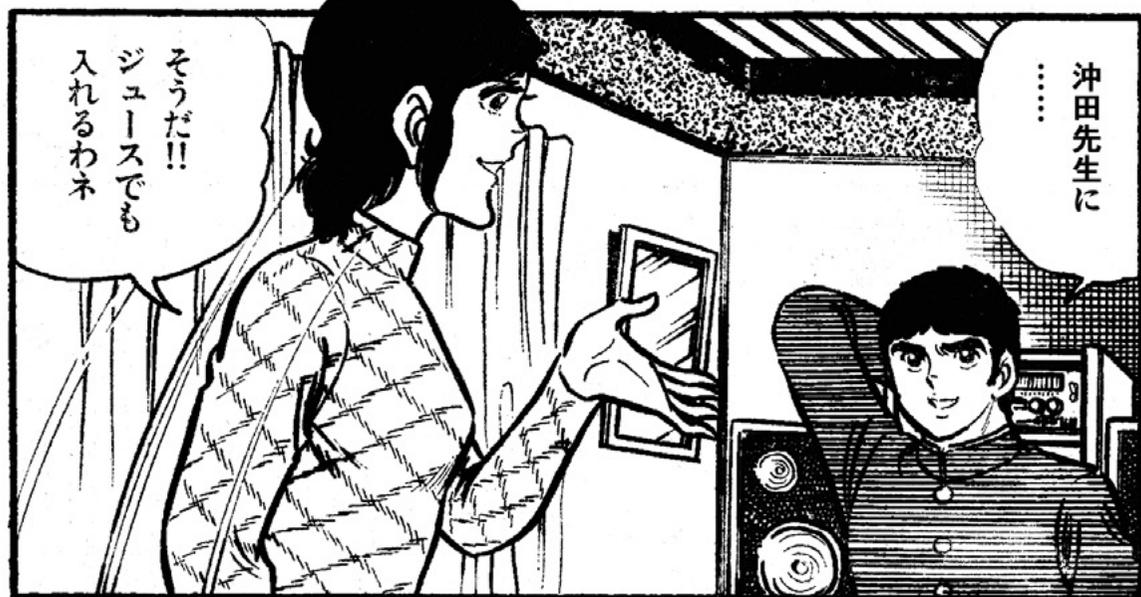
そんなところに
彼女を連れては
いけません!!



まあ
落ち着けよ
大和田
直接的では
ないにしろ
何らかの形で
数人の被害者が
出ていることは
事実だ……









な、
なぜっ!?

エエツ!!



キミを
救いたい
んだ!!
ボクだって
キミに
そんなところへ
行って欲しく
ないさっ!!

でも
.....
それしか
道は
なさそうな
気がする...



.....
初めてよ
アナタが...

.....
ありがとう



.....

.....



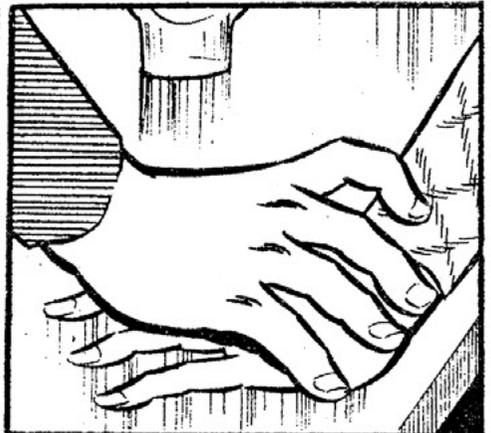


あんまり
うれしかった
もんだから
よけいな事
まで……

ゴ
ゴメンナサイ
……

そんなこと
あるもんか

ぼくの方こそ
うれしいんだ
キミがそこまで
話してくれて……



黄泉よみさんの場合
三通りの可能性が
あります

まず
第一は、
『集団妄想』
……
すなわち
その人物に
何かしらの超能力が
そなわっていると
信じ込み噂が噂を呼び
まわりの人々も信じ込む……
この場合被疑者は
むしろまわりの人々と言えます

日高超心理学研究所

こっくりさんや
魔女伝説が
そのいい例です

第二に
挙げられるのが
『テレパシー・ノックアウト』

つまり
念波^{テレパシー}で意識的に
人の意思を自由に
コントロールし
一人の人間を
自殺に追い込む
ことも可能です

ソ連では今も
この研究がなされ
軍事的
スパイ的
目的で
研究がさかんです



最後は
『ホルター
ガイスト』
……

抑圧や対人関係の
不和により
うっせきされた
愛情の欲求が
やがてヒステリー
状態におちいり

それが念力^{サイコキネシス}となり
無意識のうちに
物体を動かしたり
するのです



一九四〇年に
フランスの
ある小さな村の
尼僧院で

窓ガラスが割れ
イエス・キリストや
マリアの像が
部屋中を飛びまわり
メチャクチャに
なつたそうです

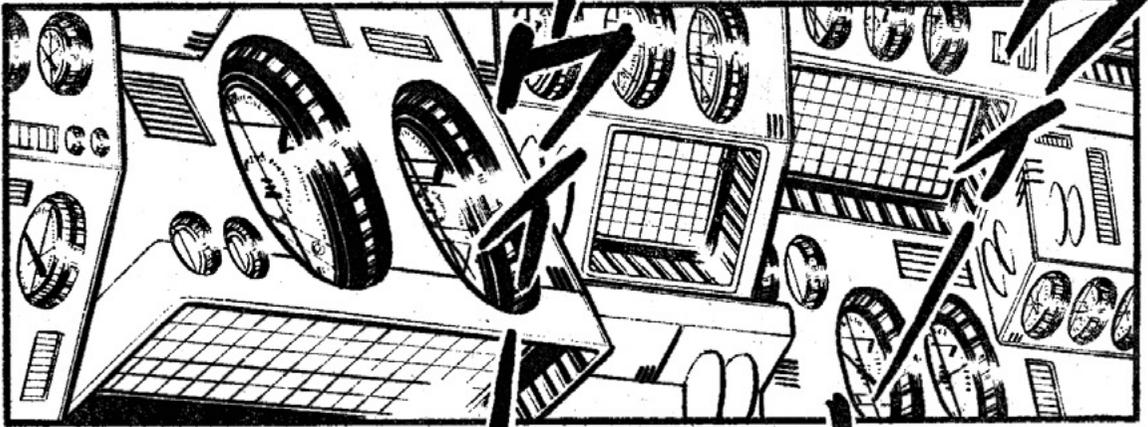
あとで
19歳になる
ジュサンという
召し使いの女性が
ひき起こした事件と
分かりました

日本でも
江戸時代に
同じような例が
記録されて
います

神本くん
彼女は
どのケースに
あてはまるん
だい？

相変わらず
せつがちね
沖田くんは
……

それを
これから
最新鋭の
コンピューターを
使って調べる
のよ





『光る眼の少女』 始末記 かたおか徹治

③



今回から『資料協力 山梨賢一』のクレジットが追加されました。

それは、ヒロインを敵役に、敵役をヒロインにと逆にして、当初の読み切り作品ではSFミステリーのつもりで描いた物を、サイコホラーへと変更しなければ連載を5回続けることが難しという判断からでした。準備期間もほとんど無く『出たところ勝負』のようなスタートでしたからやむを得ませんでした。

そこで困ったのが資料集めで、今のようにネットから簡単に検索できる時代ではなかったのも、個人では限界を感じ編集担当のTさんに資料収集をお願いしたところ、詳しい方がいるので依頼するとの事でした。

その方が当時複数の出版社で何冊も著作がある山梨さんでした。Tさんが私の構想した大まかなストーリー展開を山梨さんに伝え、それに見合った資料を探して頂きました。山梨さんに探していただいた資料を編集部を通して送ってもらうという形で連載が始まった訳です。山梨さんもお忙しいでいらっしやっただのに、いま思えばさぞご迷惑だったのではと・・・(^_^;)。

しかし、おかげでストーリー展開も途中で修正することが出来、自分ではある程度納得いく作品になったと思っています。山梨さんには本当に感謝です・・・(^o^)!!

ただ残念だったのは、最終回までご本人とお会いする機会が無かった事。私は、SF、オカルトホラーが大好きで、もしお会い出来ていれば、自分の世界がもっと広がっていたのかも・・・という『もしも願望』が今でも私の中にあります。

どんな分野の人と同じだと思いますが、色んな人との出会いが新たな自分を広げていくきっかけとなり、それが結果的にどんな形であっても貴重な宝になると信じているからです・・・(^_^;)。